

AEM011-P01

会場:コンベンションホール

時間: 5月26日17:15-18:45

東京都市域におけるリモートセンサとゾンデを用いた境界層高度日変動の観測

Observation of the Diurnal Variation of Boundary Layer Height using Remote Sensors and Radiosonde in Tokyo

小田 僚子^{1*}, 岩井 宏徳¹, 関澤 信也¹, 石井 昌憲¹, 大野 裕一¹, 川村 誠治¹, 水谷 耕平¹, 村山 泰啓¹

Ryoko Oda^{1*}, Hironori Iwai¹, Shinya Sekizawa¹, Shoken Ishii¹, Yuichi Ohno¹, Seiji Kawamura¹, Kohei Mizutani¹, Yasuhiro Murayama¹

¹独立行政法人情報通信研究機構

¹NICT

現在の都市大気環境において、ヒートアイランドや大気汚染といった深刻な問題が顕在化している。都市大気境界層高度は、大気境界層内の流れを支配する重要なパラメータの一つであり、地表面近傍の気象場（例えば、汚染物質濃度）に、大きな影響を及ぼしていると考えられている。しかしながら、観測場所・技術の制限から実都市での直接観測事例は少なく、メソ気象モデルにおいても用いる境界層スキームによって大気境界層高度が大きく異なる結果を示すなど、都市大気現象の予測には不確実性が大きい。

これについて、東京都小金井市に位置する情報通信研究機構（NICT）では、ウインドプロファイラやシーロメータ、ドップラーライダーといったリモートセンサを用いて、都市大気境界層高度変動特性について多角的な観測を実施する。

本発表では、異なる手法から推定される都市域の大気境界層高度日変動の違いについて、2010年2月に実施するラジオゾンデ集中観測の結果を交えて報告する。

キーワード:大気境界層,都市気象,リモートセンシング,ラジオゾンデ

Keywords: atmospheric boundary layer, urban climate, remote sensing, radiosonde